

東北地方太平洋沖地震派遣報告 —沖縄県医師会災害救助医療班第1陣報告—

名桜大学 出口 宝



3月11日14時46分に、東北地方三陸沖でマグニチュード9.0の地震が発生しました。そして東北地方から関東の太平洋沿岸部は巨大津波に次々と飲み込まれていき壊滅的な被害を受けました。東日本大震災の発生です。この未曾有の災害に対する医療支援を行うべく沖縄県医師会災害救助医療班が編成されました。その第1陣が岩手県大槌町へ派遣されて第2陣に任務を引き継ぎ帰還するまでの経過を報告します。

3月11日(金) 15時を過ぎた頃、名護から那覇に向かうため車に乗る直前に仙台で大きな地震があったことを知らされる。その後、次々と入ってくる情報で岩手、宮城、福島、茨城県で巨大な津波による大規模災害が発生して多くの人命が失われていることを知る。夜に帰宅後テレビに写る映像をみて、その災害の規模の大きさと広域性、そして三陸地方独特の地形から16年前の阪神・淡路大震災をはるかに上回る大規模災害であり、その時とは比較にならないほど多くの災害救助医療が必要になると確信する。

3月12日(土) 朝、8時になるのを待って玉城信光副会長の携帯電話に連絡を入れ、フェーズ2の災害救助医療の必要性と県医師会としてオール沖縄で動けないかとの相談をする。9時前に折り返しの電話があり、14時に県医師会館にて「東北地震に関する救急関係者会議」を招集するとの連絡が入る。

○ **14時00分** 玉城副会長を議長に沖縄県福祉保健部宮里達也統括監、琉球大学医学部救急部の久木田一朗教授をはじめ県内8機関から関係者が集まりフェーズ2の災害救助医療班を派

遣する方向で協議に入る。ただ、この時点では14日に予定されている県医師会理事会において承認を得た後の15日に第2回目の会議をもって詳細を決めることとなる。

3月13日(日) 災害発生から3日目の朝をむかえる。もっと迅速に動く必要があると考え、いくつかのシナリオプランニングをつくる。被災地での医療支援には機能が残った医療機関などへの応援と、医療支援が入っていない被災地に入り活動する方法が想定される。後者の場合は被災地への到達手段からスタッフの食住、そして必要医薬品など装備して全てを自己完結でおこなう完全完結型のチームを編成することが必要となる。さらに拠点診療型と巡回診療型が想定される。この時点で集めた被災状況、被災地における医療支援の状況、地理的特徴などの情報からいくつかのシナリオを検討する。そして、阪神・淡路大震災での医療支援の経験を参考に考えた結果、今回は完全完結型で被災地に入り救護所や仮設診療所などの拠点を開設するのが有効と判断。さらに出来るならば巡回診療もできる態勢が必要と考える。また、遠方である岩手県三陸地方の被災地でも出動できるよう必要な情報収集を開始する。

3月14日(月) 朝になるのをまって久木田教授に電話を入れて相談、久木田教授からも早期に動く必要性があるのではとのこと。玉城副会長に連絡、12時30分に県医師会館に集合することとなる。

○ **8時30分** 被災地に入るための必要な車両を早めにおさえておく必要があると考え、スタ

ッドレスイヤを装着した4輪駆動車を東京で2台確保するために白石グループの白石武之氏に電話で依頼し快諾を得る。しかし、この時点では予約できるレンタカー（以下、車両）もなく、ガソリンは10リットルしか給油できない現状を知る。さらに同氏からガソリン確保に關しても東京で入手できるように手配するとの連絡を受ける。その後、下地幹郎衆議院議員から電話がありガソリン確保について検討中との連絡を受ける。

○12時30分 宮城会長、玉城副会長、久木田教授、近藤先生、富田先先生、比屋根先生、小生が県医師会館に集まり打合せを開催。協議の結果、翌15日より災害救助医療班第1陣を派遣することが決定。そして、出口宝（名桜大学）、近藤豊（琉球大学）、富田秀司（健康科学財団）の3名の医師、幸喜美代子（琉球大学）、知名智子（琉球大学）の2名の看護師、源河崇（琉球大学）の1名の事務担当からなる総勢6名の第1陣が編成される。

○完全完結型のチームを編成して自力で被災地に入って拠点を確保し活動すること、第2陣が入ってくるための手段を確立することなどのミッションが固まる。第1陣が被災地に入るルートは必要物資とともに空路で羽田空港へ、物資を車両に積み込み陸路東北自動車道で北上することに決まる。しかし、まだ車両とガソリン確保については確約がとれず。

○14時00分 各々分担して準備に入る。玉城副会長は持参する医薬品の調達。久木田教授、近藤先生は琉大に戻り準備。県医師会事務局は一丸となって航空券の手配、物品調達（食料、日用品、寝袋、ガソリン携帯缶など）、そして県警へ緊急車両通行証の発行申請などの準備に奔走。

○車両確保の連絡入る。オデッセイ4WDスタッフドレスイヤ装着2台を羽田空港で引き渡し予定が決定。

○まだ東京でのガソリン確保が難航しており、東京サイドとは別のルートへ依頼して関西から羽田まで陸送する方法の検討を開始。

○県医師会事務局から日本医師会に災害救助医療班の派遣予定を連絡。

○日本医師会石井正三常任理事から電話があり派遣先についての調整を行う。そこで、完全完結型であるならば岩手県に向かってほしいとの要請あり。この時点で行き先は岩手県と決定。○日本医師会とガソリン確保について交渉。日本医師会のご尽力で車両が満タンで受け取れることとなる。これで盛岡までの燃料が確保される。

○宮里達也統括監から沖縄県東京事務所にガソリン確保について協力依頼。購入が不可能なために公用車から抜いて20ℓを携帯缶に入れてもらえることとなる。これで岩手県の太平洋岸の被災地に入るまでの燃料が確保される。

○岩手県医師会から電話があり、16日の朝に岩手県医師会と岩手医科大学対策本部で被災地の最新情報を受けてから目的地を調整する予定となる。

○下地事務所からガソリンが確保出来たとの連絡入る。これで現地での移動や帰還するための燃料が確保される。

○19時00分 関係者と県医師会事務局総出で荷造り作業開始。出来る限り医薬品と燃料を積み込みたいために緻密な計算の元に飲料と食料を必要最低限にしぶる。

○22時00分 ダンボール箱30個からなる荷造り完了。

3月15日(火) 出発の朝となる。

○12時00分 第1陣メンバーと関係者集合。

○12時30分 出発式 (Fig.1)。



Fig.1 県医師会館での出発式。

- 13時00分 医師会館出発。
- 14時04分 県医師会事務局から連絡が入り、手配してあった車両の1台が返却遅れのため空港に用意できないとの連絡入る。対応策は羽田到着後の連絡待ちとなる。
- 14時25分 JAL910便にて羽田空港へ向かう。
- 16時40分 羽田到着。県医師会事務局からの連絡で車両は当初の予定を変更して、1台は20時に沖縄県東京事務所で引き渡し予定となる。下地事務所から2名の迎えがあり、ガソリン携帯缶10缶を預ける。また1台の車両が予定変更になったため、積みきれない荷物とガソリン満タンの携帯缶を20時までに沖縄県東京事務所に届けてもらうこととなる。
- 18時34分 沖縄県東京事務所に到着。やっと予定された2台の車両がそろい荷物を積み込むが、荷物の量の関係からガソリンの携帯は1台につき3缶(60ℓ)に断念。ここで「沖縄県医師会・医療救護班」の表示を車両に張り付け「緊急車両通行証」を表示して準備完了。
- 20時19分 東京事務所を出発、岩手県盛岡市を目指す(Fig.2)。



Fig.2 沖縄県東京事務所の方々に見送られる。

- 緊急車両通行証にて真っ暗な東北自動車道を北上、途中4ヶ所のSAで幸運にも給油することができる。路面は地震の影響で段差や亀裂があり、さらに夜半には降雪となり明け方には路面がシャーベット状となり思うようにスピードを出すことが出来ない。

3月16日(水) 夜も明けるころ、東京から約550kmを走破して岩手県に入る(Fig.3)。



Fig.3 明け方に岩手県に入る。

- 8時00分 岩手県医師会館到着。石川育成医師会長、岩動孝副会長や事務局の方々と打ち合わせをする。「細く長い支援」を要望される。同日到着した20数名からなる昭和大学のチームとともに岩手医科大学対策本部での調整に向かう。
- 9時10分 岩手医科大学対策本部に到着。さっそく岩手県内の被災地についてのレクチャーを受ける。対策本部長である小林誠一郎岩手医科大学附属病院長と協議の結果、沖縄県医師会は単独で大槌町へ入り活動することが了承される(Fig.4)。昭和大学は宮古病院へ向かうこととなる。小林院長から大槌町入りに際して本田敏秋遠野市長の協力を得られるように手配をして頂く。
- 11時00分 昭和大学の方々とお互いの協力と健闘を誓い合い、岩手医科大学を出発し遠野

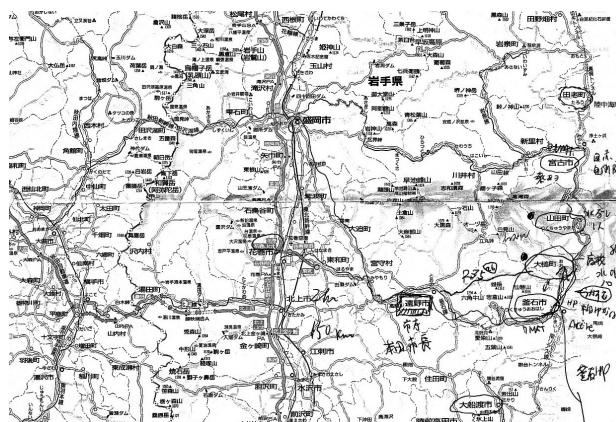


Fig.4 岩手医科大学でのレクチャーで配布された地図とその時のメモ。これをもとに遠野市経由で大槌町を目指す。

市へ向かう。途中、給油と休憩を入れる。

○14時00分 遠野市災害対策本部到着。本田市長、山尾幸司郎健康福祉部長から大槌町の対策本部に連絡を入れて頂き、行き方についての注意を受ける (Fig.5)。



Fig.5 本田市長の見送りを受けて遠野市災害対策本部を後に大槌町へむかう。

○14時20分 遠野市を出発。35号線の途中まで遠野市が先導車を出して下さる。山越えの道では吹雪と積雪となる (Fig.6)。



Fig.6 吹雪と積雪のなかでの山越となる。

○16時05分 生きた心地のしない山越えが終わり、やっと太平洋沿岸の鶴住居町へ出る。辺りには津波の爪痕が広がる (Fig.7)。

○17時00分 吹雪く中、城山公園内の中央公民館にある災害対策本部に到着。隣接する避難所となっている城山体育館内トレーニングルームに仮設診療所を設置することとなる (Fig.8)。

○18時10分 作業開始。この部屋は高齢や認



Fig.7 鶴住居町に出る。



Fig.8 大槌町の被災後の航空写真 (国土地理院)。高台以外は全て津波で壊滅。

a. 城山公園と中央公民館・城山体育館, b. 大槌高校, c. 弓道場 (この3カ所が大規模な避難所となる), d. 県立大槌病院, e. 大槌小学校 (病院と小学校は町全體とともに壊滅)。



Fig.9 仮設診療所の設置開始。

知症などで介助が必要な独居の方々の避難所でもあるため、部屋の3分の1を畳んだ卓球台で仕切る (Fig.9)。

○20時00分 設置完了。保健師さんと消防救急隊と打ち合わせ。診療所は9時～17時診療となる。ただし時間外と往診にも対応することとする。また、町の救急車が1台しかないために、救急車の要請に対しては我々が救急隊員に同行して現場に行き、遠くの救急病院に搬送する必要性があるか否かの判断をすることとなる。

○21時07分 隣の安渡地区の避難所から下痢、嘔吐者が数名発生し日中に巡回診療を受けたものの状態が悪化したため往診の依頼あり。役場職員の車両で出動し治療に当たる。帰還する途中、降雪のなか城山体育館に上がる山道で車両が雪にスタックして危うく遭難。通りかかった4輪駆動車に救出されるというアクシデント発生。そのころ仮設診療所では保健師さん1名が過労のために倒れる。保健師さんらも被災されてこの避難所で寝泊まりしながら職務に就いておられることを知る。出発してから34時間が経過、県医師会事務局の方々の心のこもった夕食（パン）を有り難くいただき各々寝袋へ入る（Fig.10）。



Fig.10 仮設診療所で寝袋に入り就寝。

3月17日（木） 雪化粧の朝をむかえる。気温は氷点下。

○6時00分 自然に全員起床。体育館のある城山公園から被災した町を見下ろして愕然とする（Fig.11）。

○8時30分 9時の開始を待たずに診療開始。トレーニングルーム入り口の廊下に多くの方々



Fig.11 城山公園から見た町の中心部近辺。



Fig.12 診察の順番を待つ方々。

が列ばれる（Fig.12）。保健師さんと診療について協議、患者数が全く未知のためにまずは1日処方、血圧は160/or/110以上を投薬対象、緑内障は診療所に来て頂き点眼することとして診療開始。ほとんどの方が被災前に服用されていた薬を流されたとのことで受診（Fig.13）。



Fig.13 診療の様子。

避難所の食事状況を調べたところ1日2食で全600Kcal位と判明。多くの患者さんは被災前よりも血圧は改善しており、インシュリン10Uを自己注射されていた方もインシュリンがなくても血糖値が300前後。疾患別には高血圧、糖尿病、不眠、不安神経症、消化器疾患そして縁内障など。肋骨骨折にはシーツを割いて代用 (Fig.14)。



Fig.14 避難時に受傷された方。

○17時46分 潰瘍性大腸炎の方が津波にて内服薬を流失、粘血便、腹痛、発熱などの症状が悪化したために自衛隊車両にて岩手医科大学へ搬送 (Fig.15)。夜、避難所の夕食に紙コップ半分ずつの暖かいみそ汁が配られるのを見て、我々も現地入り初の暖かいもの（カップヌードル）を食べる。



Fig.15 吹雪くなか自衛隊の車両で盛岡へ搬送。

3月18日(金) 雪がちらつく朝をむかえる。気温は氷点下。大槌町から釜石に通ずる幹線道路が開通。さらに城山公園から町へ降りる道が開通。急に多くの支援物資が中央公民館に届くようになる。避難所の方々へ歯磨きセットが届く。水も1人当たり2本以上配られるようになる (Fig.16)。



Fig.16 避難所に次々と運び込まれた救援物資。

○8時30分 診療開始。岩手県からの医薬品の支給もあり、3日処方とする。日中に喘息重責発作の方1名を県立釜石病院へ救急搬送。

○14時27分 県医師会事務局と連絡を取るために釜石市に行く。携帯電話が繋がり第2陣派遣の予定を知る。不足薬品を伝える。その後、釜石市保健所に行き大槌町の状況を報告、カルテ用紙をコピー印刷させて頂く。

○22時10分 救急要請があり救急隊員に同行して出動。夜の被災地は真っ暗の中、至る所に瓦礫が散在しており通行が困難。なんとか現場に到着する。患者さんは大事なく我々も無事帰還 (Fig.17)。夜になって津波の被害はなかったものの孤立してしまった金沢地区から何十通もの封書が届く。中には震災前に服用していた薬の説明書きやメモ。明日これらを持って往診することとなり個別の薬の調整を行う。この時点で、大槌町には避難所数が大小42ヶ所あり避難者数は6,173名。各避難所間と仮設診療所間の送迎巡回バスを出せないかを保健師さんと検討。



Fig.17 暗闇のなか救急要請のあった避難所へ向かう。

3月19日(土) 雪も溶けて晴れた朝をむかえる。町の中心道路の瓦礫の撤去も進む。携帯電話の電波を求めて町に降りる。津波と火災の威力を目の当たりにする (Fig.18,19)。



Fig.18 壊滅した県立大槌病院。閉鎖となる。



Fig.19 土砂や瓦礫が撤去された大槌町のメインストリート。

○ 8時30分 診療開始。

○ 9時00分 前夜に依頼のあった金沢地区へ往診部隊が出発。

○ 10時05分 救急要請があり小槌地区の避難所へ出動。肺炎、肋骨骨折、サブイレウス、下腿骨折の治療に当たる。帰りに、被災されてへりで救助された後に弓道場の避難所で診療されている地元の開業医植田先生を訪ねる。我々が感謝され励ましを頂く。

○ 21時00分 金沢地区への往診部隊が帰還。大歓迎を受けたとのこと。さまざまな問題点も浮き彫りになり、保健師さんらと対応策を検討。

3月20日(日) 携帯電話が城山公園の周囲で使えるようになる。始めての炊出しがやってくる。

○ 8時30分 診療開始。いくつかの往診依頼に出動。

○ 20時30分 第2陣が花巻空港から大量の物資とともに島尻あい子参議院議員をとおして手



Fig.20 第2陣が到着。



Fig.21 保健師さんたち。

配して頂いた自衛隊のトラックで到着 (Fig20)。保健師さんや救急隊に引き継ぎの報告。保健師さん全員と集合写真となる (Fig21)。

3月21日(月) 寒さが緩んだ朝をむかえる。

○ 8時30分 診療開始。午前中に第2陣への引き継ぎを行う。

○ 13時30分 保健師さんらに見送られて第1陣は現地を後に花巻へむけて出発。20日までの診療数はのべ429名(内往診が90名)となる。

3月22日(火) 第1陣全員無事に任務を終了し沖縄へ帰還。

出発式では第1陣を代表して「我々を送り出して下さる方々の代表として出来る限りのことをしてきたい」との挨拶をさせて頂きました。ご支援いただき送り出して下さった会員の皆様と事務局の皆様に御礼を申し上げます。大槌町での医療支援活動は第2陣へと襷がわたりました。そして、被災地の医療が復興し始めるまではこの襷を次々とつなぎながら派遣を続けることが求められていると思います。被災地の方々に一刻も早く普段の生活が戻ることを願うとともに、今後とも沖縄県医師会あげてのご支援を頂きますようお願い申し上げます。

平成23年3月31日記

沖縄県医師会 災害救助医療班メンバー一覧(予定含む)

班	出発日	帰沖日	医療機関名	氏名	職種	班	出発日	帰沖日	医療機関名	氏名	職種
1	3/15(火)	3/22(火)	名桜大学	出口 宝	医師	8-①	4/18(月)	4/25(月)	ハートライフ病院	大西 勉	医師
1	3/15(火)	3/22(火)	健康科学財団	富田 秀司	医師	8-①	4/18(月)	4/25(月)	天久台病院	比嘉 規晶	看護師
1	3/15(火)	3/22(火)	琉球大学	近藤 豊	医師	8-②	4/20(水)	4/27(水)	牧港中央病院	黒木慶一郎	医師
1	3/15(火)	3/22(火)	琉球大学	幸喜美代子	看護師	8-②	4/20(水)	4/27(水)	おやかわクリニック	澤穂美智子	看護師
1	3/15(火)	3/22(火)	琉球大学	知名 智子	看護師	8-②	4/20(水)	4/27(水)	おやかわクリニック	兼城 真実	事務
1	3/15(火)	3/22(火)	琉球大学	源河 崇	事務	9-①	4/23(土)	4/30(土)	首里城下町クリニック	田名 穀	医師
2	3/20(日)	3/27(日)	伊江村立診療所	阿部 好弘	医師	9-①	4/23(土)	4/30(土)	北中城若松病院	西島本政一	看護師
2	3/20(日)	3/27(日)	下地診療所	打出 啓二	医師	9-②	4/25(月)	5/2(月)	琉球大学	合志 清隆	医師
2	3/20(日)	3/27(日)	桑江皮フ科病院	桑江朝二郎	医師	9-②	4/25(月)	5/2(月)	中部徳洲会病院	金城 勝子	看護師
2	3/20(日)	3/27(日)	豊見城中央病院	小山みどり	看護師	9-②	4/25(月)	5/2(月)	沖縄県医師会	崎原 靖	事務
2	3/20(日)	3/27(日)	豊見城中央病院	上仁 香奈	看護師	10-①	4/28(木)	5/5(木)	琉球大学	久木田一郎	医師
2	3/20(日)	3/27(日)	下地診療所	佐久川 卓	事務	10-①	4/28(木)	5/5(木)	調整中		
3	3/25(金)	4/1(金)	長嶺胃腸科内科外科医院	長嶺 信夫	医師	10-②	4/30(土)	5/7(土)	Dr.久高のマンマ家クリニック	久高 学	医師
3	3/25(金)	4/1(金)	まちだ小児科	町田 孝	医師	10-②	4/30(土)	5/7(土)	北中城若松病院	中村 泰裕	看護師
3	3/25(金)	4/1(金)	ハートライフ病院	仲地ますみ	看護師	10-②	4/30(土)	5/7(土)	沖縄県医師会	山城 政	事務
3	3/25(金)	4/1(金)	いむら内科胃腸科クリニック	松本 亜希	看護師	11-①	5/3(火)	5/10(火)	沖縄セントラル病院	石田 真一	医師
3	3/25(金)	4/1(金)	豊見城中央病院	大湾 朝太	事務	11-①	5/3(火)	5/10(火)	ちゅうざん病院	田名 諭季	看護師
4-①	3/30(水)	4/5(水)	嶺井リハビリ病院	比屋根 勉	医師	11-②	5/5(木)	5/12(木)	北中城若松病院	九里 武晃	医師
4-①	3/30(水)	4/5(水)		長瀬 貴子	看護師	11-②	5/5(木)	5/12(木)	ちゅうざん病院	鈴木多恵子	看護師
4-②	3/31(木)	4/7(木)	沖縄大学	山代 寛	医師	11-②	5/5(木)	5/12(木)	沖縄県医師会	高良 剛	事務
4-②	3/31(木)	4/7(木)	ハートライフ病院	眞榮城克匡	看護師	12-①	5/8(日)	5/15(日)	ハートライフ病院	普天間光彦	医師
4-②	3/31(木)	4/7(木)	天久台病院	戸磯 敬	事務	12-①	5/8(日)	5/15(日)	調整中		
5-①	4/3(日)	4/10(日)	介護老人保健施設 陽光館	饒波 保	医師	12-②	5/10(火)	5/17(火)	琉球大学医学部	栗山 登志	医師
5-①	4/3(日)	4/10(日)	ハートライフ病院	嘉数 智子	看護師	12-②	5/10(火)	5/17(火)	北中城若松病院	小泉 美穂	看護師
5-②	4/5(火)	4/12(火)	豊見城中央病院	高江洲秀樹	医師	12-②	5/10(火)	5/17(火)	沖縄県医師会	久場周多郎	事務
5-②	4/5(火)	4/12(火)	南部病院	大城 正志	看護師	13-①	5/13(金)	5/20(金)	かじまやークリニック	金城 聰彦	医師
5-②	4/5(火)	4/12(火)	琉球大学	渡名喜紹裕	事務	13-①	5/13(金)	5/20(金)	北中城若松病院	新垣 悟	看護師
5-②	4/5(火)	4/12(火)	琉球大学	長松 俊樹	事務	13-②	5/15(日)	5/22(日)	北中城若松病院	吉田 貞夫	医師
6-①	4/8(金)	4/15(金)	豊見城中央病院	島袋 伸洋	医師	13-②	5/15(日)	5/22(日)	北中城若松病院	嘉陽多津子	看護師
6-①	4/8(金)	4/15(金)	ハートライフ病院	下地 博一	看護師	13-②	5/15(日)	5/22(日)	沖縄県医師会	比嘉 恒夫	事務
6-②	4/10(日)	4/17(日)	北部病院	高江洲信孝	医師	14-①	5/18(水)	5/25(水)	調整中		
6-②	4/10(日)	4/17(日)	沖縄メディカル病院	豊村 朝春	看護師	14-①	5/18(水)	5/25(水)	北中城若松病院	新城 恵	看護師
6-②	4/10(日)	4/17(日)	こころクリニック	仲里真樹子	事務	14-②	5/20(金)	5/27(金)	調整中		
7-①	4/13(水)	4/20(水)	ハートライフ病院	管野善一郎	医師	14-②	5/20(金)	5/27(金)	調整中		
7-①	4/13(水)	4/20(水)	沖縄メディカル病院	知念 正則	看護師	14-②	5/20(金)	5/27(金)	沖縄県医師会	平良 亮	事務
7-②	4/15(金)	4/22(金)	きなクリニック	山内 肇	医師	15-①	5/23(月)	5/30(月)	曙クリニック	玉井 修	医師
7-②	4/15(金)	4/22(金)	名嘉村クリニック	津嘉山 晃	看護師	15-①	5/23(月)	5/30(月)	北中城若松病院	新垣 和彦	看護師
7-②	4/15(金)	4/22(金)	沖縄県医師会	徳村 潤哉	事務	15-②	5/25(水)	6/1(水)	調整中		
						15-②	5/25(水)	6/1(水)	北中城若松病院	林 和美	看護師
						15-②	5/25(水)	6/1(水)	沖縄県医師会	山川 宗矩	事務